

## 2020年新年の御挨拶



一般社団法人 埼玉県歯科技工士会  
会 長 野 島 正 美

新年あけましておめでとうございます。一般社団法人埼玉県歯科技工士会 会員の皆様におかれましては、すこやかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年の7月には、夏季開催としては56年ぶりの「2020年東京オリンピック」が開催されます。昨今の経済の停滞が続くなか、東京五輪2020を契機とした新事業創出やそれに通じた日本経済再生に寄せられる期待は大きく、歯科界や歯科技工業界にも明るいニュースが続くことを期待しております。

本会を振り返ると、春の叙勲では元会長の竹内 清郎 氏が旭日双光章を受賞されました。旭日双光章とは、市議会議員議長の重責を経験された方が頂けるものと心得ておりましたのでとても驚きました。それだけ竹内元会長の実績が顕著なものであったと、誇らしく思っております。1月11日に開催する県技新年会に於いて、会員の皆様と共にお祝いをしたく叙勲受章祝賀会を企画いたしました。

さて早いもので無我夢中で走り抜けてきた、2期4年の代表理事の任期もゴールテープが見えてまいりました。任期中は「夢を具現化するのは数であり、数は力だ。そして力は会員数だ」を常に意識して事業推進してまいりました。

具体的には、県内支部を活性化し効率良く運営するために「4つの支部に再編」いたしました。それに伴い、若い勤務者が無理なく参加活動できるように「職場支部」を新設し、現在3社が職場支部として承認新設されております。

さらに越谷支部で始めた「リレー・フォー・ライフ・ジャパンさいたま」の活動を県技事業として引き継ぎました。後援事業を通じて法人格を持った団体としての役割を表現してまいります。

また、本会の意義や役割を内外にきちんと示すため「県技ホームページリニューアル」を行いました。会員の皆様にとって利便性の向上にも繋がる様に考慮いたしました。

そして、継続的に組織拡充を実施出来るように「組織拡充用チラシとパンフレット」を発行いたしました。組織拡充は思い付いた時にだけ行うのではなく、呼吸をするように常に行わなければなりません。

定められた任期のなかで、会員の皆様とのお約束を果たすべく種を蒔き、水撒きをして、新芽が芽吹いてまいりました。

「流水は腐らず。淀む水には芥溜まる」と申すとおおり、私たち一人ひとりの会である埼玉県歯科技工士会の、次のリーダーにバトンを託したいと考えております。

これからも歯科医師会、歯科衛生士会、歯科技工士会が一丸となり、県民に安全・安心の歯科医療を提供することをお誓いし、さらなる歯科界の発展とともに本年が会員の皆様にとって、素晴らしい年に成ります様ご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。